

# 令和6年度全国学力・学習状況調査における

## 北九州市立 皿倉 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、6年生を対象として、令和6年4月18日（木）に、「教科（国語、算数）に関する調査」、文部科学省が指定した日（4月10日から4月30日の間）に「児童質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### 1. 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2. 調査内容

#### (1) 教科に関する調査（国語、算数）

教科に関する調査（国語、算数）	
①	身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
②	知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

#### (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査	
○	学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

### 3. 教科に関する調査結果の概要

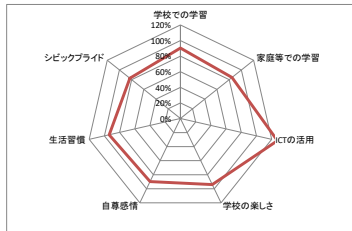
#### (1) 全国・本市の学力調査（国語、算数）の結果

本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	9.6	60
全国	9.5	68	10.1	63

#### (2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	正答率について、観点別にみると「知識・技能」（全国比-5.6ポイント）、「形式別」にみると「記述式」（全国比-2.1ポイント）が全国との差が小さい。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくなった問題	3「文の中における主語と述語との関係をと捉えることができるかどうかをみる」問題（正答率62.5%（全国比+0.2ポイント））	
	努力が必要な問題	1「目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、伝え合う内容を検討することができるかどうかをみる」問題（正答率45.0%（全国比-17.5%））	
算数	全体的な傾向や特徴など	正答率について、観点別にみると「知識・技能」（全国比-3.8ポイント）、「形式別」にみると「選択式」（全国比-4.5ポイント）が全国との差が小さい。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくなった問題	4（4）「速さの意味について理解しているかどうかをみる」問題（正答率60.0%（全国比+5.9ポイント））	
	努力が必要な問題	4（3）「道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる」問題（正答率20.0%（全国比-11.0ポイント））	

### 4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



・ICTの活用に関する各項目の肯定的回答は、全国を大きく上回った。（全国比+27.6%）

・「友達関係に満足していますか」「人の役に立つ人間になりたいと思いませんか」「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」の項目の肯定的回答は、約9割と高水準であった。

・学校での学習（全国比-9.6%）や家庭での学習（全国比-15.5%）に関する各項目肯定的回答は、全国を下回っていた。

・上記のほか、課題となるものについては、授業改善を進めたり保護者への啓発を図ったりする必要がある。

### 5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科に関する取組

・学習時間において、知識・技能の習得、思考力・判断力・表現力の育成、学びに向かう力・人間性の涵養を確実にに行い、全体的な底上げを図る。

・探究的な学習を推進し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図り、学習意欲を向上させる。

#### ② 家庭生活習慣等に関する取組

・基本的な生活習慣や家庭学習習慣について、児童や保護者に機会を捉えて啓発する。

・自尊感情やシビックプライドを醸成することができるよう、児童一人一人に日常的に適切な声掛けをする。